

〈目的〉和服と称される衣服形態は、確立されて久しい。しかし、その裁断、縫製、仕上げといった製作上の技術は、従来の経験や習慣に頼る所が大きい。反面、被服が学問的に取り扱われている今日、構成に関する理論的解明の可能性を有する部分も多い。

今回は、羽織の衿に着目し、その合理的な折り方を研究した。

〈方法〉 i)材料、衿先の仕末、布の重なりを衿の形態に及ぼす条件とし布端の位置移動を横断面図により検討して、布幅、衿幅、つけ代、外衿のひかえを変数にし、その相関関係の式を考案した。

ii) i)で得られた式に、任意の数値を代入し、布地による実践から、上記の条件について適不適を検討した。

〈結果〉 i)布の重なり位置を衿幅の中心、衿つけ側とに大きく分け、それぞれに適應する式を求めることにより、羽織の衿の合理的な折り方が解明できた。

ii) i)で得られた式が實際面で簡単に応用できることが認められた。